

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 6 月 1 日 (2006.6.1)

【公開番号】特開 2005-230608 (P2005-230608A)

【公開日】平成 17 年 9 月 2 日 (2005.9.2)

【年通号数】公開・登録公報 2005-034

【出願番号】特願 2004-39809 (P2004-39809)

【国際特許分類】

B 0 1 D 21/02 (2006.01)

C 0 2 F 1/24 (2006.01)

C 2 3 G 1/36 (2006.01)

C 2 3 G 3/00 (2006.01)

【F I】

B 0 1 D 21/02 Z A B F

C 0 2 F 1/24 A

C 2 3 G 1/36

C 2 3 G 3/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 4 月 7 日 (2006.4.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 4】

請求項 1 ～ 3 の何れかに記載のアルカリ洗浄液のリサイクル装置の使用方法であって、前記複数枚の堰の間をレイノルズ数が 3 0 0 0 以下となるように廃液を流動させることを特徴とするアルカリ洗浄液のリサイクル装置の使用方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

(2) 前記(1)に記載のリサイクル装置において、複数枚の堰の間(流路)をレイノルズ数が 3 0 0 0 以下となるように廃液を流動させるアルカリ洗浄液のリサイクル装置の使用方法。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 6】

本発明のアルカリ洗浄液のリサイクル装置の使用方法は、『前記本発明のリサイクル装置において、複数枚の堰の間(流路)をレイノルズ数が 3 0 0 0 以下となるように廃液を流動させる使用方法』である。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 5 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 5 0 】

【 数 1 】

$$R_e = \frac{W \cdot U}{\nu} \quad \cdot \cdot (1)$$

ただし、 R_e : 堰間レイノルズ数 [－]

W : 堰の水平方向間隔 [m]

U : 2 枚の堰で形成された流路の入口
における堰間流速 [m]

$$U = u / \cos \theta$$

ここで、 u : 液面上昇速度 [m]

θ : 堰の傾き [°]

ν : 動粘性係数 [m²/s]

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 5 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 5 5 】

このように、複数枚の堰の間（流路）をレイノルズ数が 3 0 0 0 以下となるように廃液を流動させる本発明のアルカリ洗浄液のリサイクル装置の使用方法によれば、廃液中の不純物の効果的な分離が行える。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】 図 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【図 6】

